

日本生体医工学会 平成 30 年度第 3 回理事会議事録

日時 平成 30 年 10 月 12 日 (金) 14:00~17:30

会場 コンベンションホール AP 東京八重洲通り 12 階 C ルーム

<出席者>

理事長: 木村 裕一

副理事長: 杉町 勝, 大城 理 (兼関西支部長)

理事: 守本 祐司, 川田 徹, 野村 泰伸, 生田 幸士 (第 58 回大会長),
井村 誠孝, 中島 一樹, 成瀬 恵治 (第 59 回大会長), 松村 泰志,
横澤 宏一

監事: 吉田 正樹, 中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹事: 原口 亮, 永岡 隆

事務局長: 磯山 隆

オブザーバー: 工藤 信樹 (北海道支部長・遠隔出席), 長谷川 純一 (東海支部長),
伊良皆 啓治 (九州支部長・遠隔出席), 西川 拓也 (若手研究者活動 WG)

<欠席者>

理事: 石原 謙 (兼中国四国支部長), 黒田 知宏, 佐藤 嘉伸, 平田 雅之,
松田 哲也, 坂田 泰史

監事: 澤 芳樹

幹事: 京相 雅樹

<理事会議題>

- 30-3-00 平成 30 年度第 3 回議題案
- 30-3-02 平成 30 年度第 2 回理事会議事録承認の件
- 30-3-03.1 入退会審査対象者
- 30-3-03.2 入会希望者リスト
- 30-3-03.3 逝去・退会者リスト
- 30-3-04 平成 30 年度 JSMBE 各委員会構成
- 30-3-05-1 理事・監事候補推薦規程改定について
- 30-3-05-2 謝金の規程を制定するための委員報酬規程の改定について
- 30-3-06-1 生体医工学誌の刊行回数削減について
- 30-3-06-2 ABE 誌のインパクトファクター取得へ向けた取り組みについて
- 30-3-07 財務に関する基本方針
- 30-3-08-1 2018 年学会大会事業・収支報告 (9 月末時点・事業)

30-3-08-2	2018 年学会大会事業・収支報告（9 月末時点・収支）
30-3-10	平成 31・32 年度の代議員数について
30-3-11	生体医工学シンポジウム 2018 報告
30-3-12	臨床工学技士会連携 WG の発足
30-3-13-1.1	C E 委員会内規（案）
30-3-13-1.2	臨床 ME 専門認定士 に関する内規（案）
30-3-13-2.1	平成 29 年 3 月期までの剰余金の精算について （臨床 ME 専門士認定制度について合意書）
30-3-13-2.2	平成 30 年 3 月期の赤字補填の精算について （臨床 ME 専門士認定制度について合意書案）
30-3-13-2.3	臨床 ME 覚書別紙（清算）
30-3-14-1	第 40 回第 2 種 ME 試験報告書
30-3-14-2.1	第 40 回第 2 種 ME 技術実力検定試験問題（午前）
30-3-14-2.2	第 40 回第 2 種 ME 技術実力検定試験問題（午後）
30-3-15-1	選奨申請_関東支部 優秀発表賞
30-3-15-2	選奨申請 北海道支部 2018
30-3-15-3	選奨報告書（2018-002）
30-3-15-4	第 2 回 Young Investigator's Award (YIA) 審査について
30-3-16-1	サマースクール 2018 活動報告書案
30-3-16-2	サマースクール 2018 収支計算書案
30-3-17	臨床研究法 WG について
30-3-18	生体医工学連絡委員会 2018 年度 10 月理事会資料
30-3-19	他団体との後援・協賛状況
協賛 01	HOSPEX2018
協賛 02	第 16 回 医用分光学会
協賛 03	MICT 研シンポジウム案内
協賛 04	国際会議 IEEE VR 2019
協賛 05	レーザー学会学術講演会 第 39 回年次大会
協賛 06	第 30 回国民の健康会議
協賛 07	CMBE2019
協賛 08	第 31 回自律分散システムシンポジウム
協賛 09	第 31 回計算力学講演会（CMD2018）
協賛 10	第 10 回日本複合材料会議（JCCM-10）
後援 01	第 11 回 MDIC 認定セミナー
後援 02	医療機器等ガイドライン活用 セミナー
後援 03	第 14 回日本分子イメージング学会学術集会

1. 理事会成立の件 総務【議案 1】

定款 34 条 2 項に則り、定足数 10 名を超える理事 12 名の出席、監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

2. 平成 30 年度第 2 回議事録承認の件 総務【議案 2、審議事項】

資料 30-3-2 に基づき、平成 30 年度第 2 回議事録の確認が行われ、全会一致で原案通り承認された。

3. 入退会状況の件 会員【議案 3、審議事項】

資料 30-3-03.1、03.2、03.3 および回覧資料により入退会状況の確認が行われ、全会一致で承認された。準会員として申請されていた 1 名については、専任教員のため正会員への種別変更を該当者が承諾することを条件に承認された。

4. 各委員会・WG 委員会・WG 委員会・WG 構成の件 【議案 4、審議事項】

資料 30-3-04 に基づき確認・承認が行われた。

論文賞・阪本賞選定委員会委員の選任が未了だったが、新技術開発賞選定委員会の委員に依頼する旨、委員長より説明があり全会一致で承認された。

今後、委員就任の本人承諾を得ることとなった。

5. 理事・監事候補推薦規程改定および謝金の規程を制定するための委員報酬規程の改定について 総務【議案 5、審議事項】

資料 30-3-05-1 に基づき、大城総務委員長より支部や企業からの理事会への参加を実現するための理事・監事候補推薦規程改定について説明が行われた。

定款の変更は行わず規程のみを改定する方針であること、法的に問題ないことも司法書士に確認済みであることが報告された。

また代議員選挙等の日程を勘案しても、改定された規程に基づく運用に問題ないことが合わせて確認された。

以上から改定の方針について全会一致で原案通り了承され、次回 1 月の理事会にて規程案を審議することとなった。

また、資料 30-3-05-2 に基づき、木村理事長より謝金の規程を制定するための委員報酬規程の改定について説明が行われ、全会一致で原案通り承認された。これは、公益法人に求められる、謝金に係る運用の明文化のためである。

6. 生体医工学誌の刊行回数削減および ABE 誌のインパクトファクター取得へ向けた取り組みについて 編集【議案 6、報告・審議事項】

資料 30-3-06-1 に基づき横澤理事より、編集経費の削減のために生体医工学誌の刊行回数削減について説明が行われた。刊行回数を現行の年 5 回から年 4 回に削減することとなった。尚、合併号の体裁を取ることから形式上、号数は現状のままとなる。号間の頁数のバランスを取るために、具体的にどの巻号を合併するかは編集に一任し、次回以降の理事会で報告することで了承された。

また、生体医工学の完全電子化について議論がなされ、現在は学会アクティビティと財務とのバランスを考慮し、現時点では特に検討していなかったが、引き続き議論を進めることとした。紙媒体のメリットとして本棚に並んでいることの宣伝効果、読みたい論文以外の論文も目に触れること等が挙げられた。一方で保管スペース・検索性の観点から紙媒体の必要性は低いという意見も出された。

引き続き資料 30-3-06-2 に基づき、横澤理事より ABE 誌のインパクトファクター(IF)取得へ向けた取り組みについて報告が行われた。IF の取得には被引用数が不足しており、大幅な増加が必要である。又、IF 取得後これを維持するためには、国際性の表出が必要であり、掲載論文の著者に外国の研究機関に所属する方を入れる必要がある。

引用数増加には、権威ある国際学会の予稿を集めた Conference Proceeding Citation Index (CPCI) に収載されている予稿からの ABE の引用を増やす必要があるため、CPCI 収載の学会大会の予稿締め切りに合わせて、引用を全員に勧奨することとなった。

また以下の意見交換が行われた。

- 現在 IF がついていない ABE 掲載の論文を引用しても IF 取得に寄与する。
- 海外研究者を guest editor として海外特集号を組んでみてはどうか。
- Invited review paper をサポートする、例として英文校正費用を補助してはどうか。
- 学会やシンポジウムで優秀な演題に対して、論文執筆を働きかけてはどうか。

IF 取得へ向けた取り組みについては引き続き編集委員会にて議論をお願いすることとし、理事会としても引き続きサポートしていくことが確認された。

7. 基金について 財務【議案 7、審議事項】

資料 30-3-07 に基づき、中島理事より平成 30・31 年度の財務に関する基本方針について説明が行われ、全会一致で原案通り了承された。また以下の意見交換が行われた。

- 提案通りの対策を行ったとしても、平成 31 年度は依然として約 300 万円の赤字の見込みである。

- 基金のうち、論文賞・阪本賞・荻野賞・教育試験事業の 4 基金は、公益法人化の際に公益目的保有財産として国に届け出ているので、取り崩すためには国の許可が必要である。一方で、学会賞・事業安定化・IFMBE Traveling Fellowship の 3 基金は、理事会の議決で使用できる。以上から、論文賞・阪本賞・荻野賞の 3 賞は現時点では基金を選奨に充てることはできない。また繰越額が残っていることから、3 基金の取り崩しも 2019 年度には行わず、当面は財務の健全化に務める。
- 赤字傾向にあるものの、繰越金はまだあるので、学会のアクティビティを落とすことなく、バランス感覚を持った運営が必要。
- 事業ごとの経費の執行管理について、今後執行の都度確認を行うこととする。
- 予算の精度を上げるために、例年 3 月に行っている財務から来年度予算策定の関係各所への依頼を、11 月中締め切りで依頼することとする。
- 収入を増やす方向での検討も今後は必要、ABE の掲載料設定、会員増のための関連学会との連携、支部・研究会の活性化、全国大会の充実が必要である。

8. 2018 年学会大会事業・収支報告（9 月末時点・報告）、2018 年学会大会事業・収支報告（9 月末時点・収支） 第 57 回大会【議案 8、報告事項】

資料 30-3-08-1、08-2 に基づき木村理事長より報告が行われた。約 347 万円の黒字であった。

開催地の支部に学会大会を積極的に企画していただくことで学会の活性化を図りたいという杉町前理事長の方針を引き継ぎ、木村理事長より（1）大会の収益のうち半分を開催した支部に紐付けること、（2）支部に紐付けされた収益が死蔵されないよう使用目的の明示と執行期限を設けること、（3）現規程上では支部や研究会から、会員に対する謝金や交通費の支給が禁止されているが、事業による収益に対するインセンティブ運用を実施した場合の制限の要因となりうることから、この改定を検討することが提案された。

出席者からは大会を支部がサポートするインセンティブがやはり必要、財務状況からは全額本部に返して欲しい、全国大会だけでなく生体医工学シンポジウムやサマースクールも対象にしては、大会開催の準備資金として本部から支部へ例年支出している 300 万円は計算から除外しないとインセンティブとして大きすぎないか、年月を経るにつれて支部紐付けの管理が複雑になるのではないかと、支部側での使途のアイデア出しが必要といった意見が出され、引き続き検討していくことになった。

大会収入のうち、三田村先生からのご寄付が 110 万円を占めることから、北海道支部の積立金としたいという岡本大会長からの要望（資料 30-3-08-1 に記載）については、その合理性を認めた上で、次回理事会で審議することとなった。

9. 2019 年学会大会進捗報告 第 58 回大会【議案 9、報告事項】

生田第 58 回大会長より資料 30-3-09 に基づき説明があった。大会準備のために学会より 100 万円を支出することが全会一致で承認された。今大会は沖縄県から 400 万円程度の補助金が支出される。それに合わせて学会からの補助金が減額されているように見えないかとの指摘があったが、以前の大会においても開催規模によって学会からの補助金は増減していることから、問題ないとの意見があった。天災や天候不良により大会収支が大幅に悪化した場合には学会本部より補填する方針が確認された。配布資料中に予備費が約 800 万と記載されているが、会場設備使用料が積算しきれていないことが理由である。

また、本予算案には併催される看護理工学会との予算面での連携が記載されていないので今後補完する。

台湾 ME 機器展示会が同時期に開催されることが判明し、現在先方と沖縄コングレを交えて会場の共同利用などを交渉中であることも合わせて報告された。

- 大会ホームページが大会終了後に消滅するのを防ぐためにアーカイブを取得して学会ホームページに移設できることが確認された。
- イベント保険の加入について検討してはという提案があった。
- 参加者を 900 名と想定しているが、前回大会は 700 名強であり、過大ではないかとの指摘があった。

10. 平成 31・32 年度の代議員数について 選挙管理【議案 10、審議事項】

資料 30-3-10 に基づき事務局より報告があった。選挙準備についても順調に進捗していることが報告された。

11. 生体医工学シンポジウム 2018 報告 シンポジウム WG【議案 11、報告事項】

資料 30-3-11 および回覧資料に基づき、大城副理事長・生体医工学シンポジウム WG 長より報告があった。参加者総数 270 名、71 万円の黒字であった。

続いてシンポジウム 2019 の開催日程（2019 年 9 月 6 日（金）～7 日（土））が報告され、同時期開催の第 2 種 ME 試験とは重複しないことが確認された。

また、シンポジウム 2020（弘前大学）・2021（富山大学）の開催予定も示され、WG の若手会員への移行が検討されている旨の報告があった。

12. 臨床工学技士会連携 WG の発足 臨床工学技士会連携 WG【議案 12、審議事項】

資料 30-3-12 に基づき、木村理事長より説明があり、全会一致で原案通り承認された。

13. CE 委員会内規（案）及び臨床 ME 専門認定士合同認定に関する内規（案）、臨床 ME 専門認定士認定制度の運営費用に関する日本医療機器学会との合意書（案） CE【議案 13、審議事項】

資料 30-3-13-1.1、1.2 に基づき、守本理事より CE 委員会内規（案）及び臨床 ME 専門認定士合同認定に関する内規（案）について説明が行われた。

これまで日本生体医工学会と日本医療機器学会との合同で運営されていた臨床 ME 専門認定士合同認定委員会が、今後は生体医工学会の公益法人化に伴い CE 委員会の下部組織として位置付けられる。しかし引き続き運営費用や人的資源については従来通り両学会で分担して負担することが維持される。資料 30-3-13-2.1 から 2.3 については、以上に関わる経緯や合意事項などを文書化したものである。以上の内容について全会一致で原案通り承認された。今後の運営については新たに合意書を作成する予定である。

14. 第 40 回第 2 種 ME 試験報告書、第 40 回第 2 種 ME 技術実力検定試験問題 ME 技術教育 【議案 14、報告事項】

資料 30-3-14-1 に基づき、守本理事より第 2 種 ME 試験の実施状況ならびに合格者の選定方法の説明が行われ、全会一致で原案通り合格者が承認された。引き続き意見交換が行われた。

- 受験者数が減少傾向にある。全国の臨床工学技士養成校は増加傾向にあるが、定員割れを起こしている学校も多く、少子化の影響が考えられる。
- 札幌会場は北海道胆振東部地震（9 月 6 日）の直後であったが試験を実施した。例年より欠席率は高めではあったが、大幅な減少とはならなかった。会場使用不可などの突発事態への対応などを次年度以降検討して行く予定である。
- 留学生の受験者数は増加しているか？→統計をとっていないので不明。
- 本事業としては学会としても大切なアクティビティである。
- 指導者層を認定する第 1 種 ME 技術者試験について、受験者数が減少している。細かな知識を問う現在の試験問題が適切ではないという問題意識から、問題解決能力を問う試験問題へと大幅に変えていく方針である。
- ME 試験事業に関わる若手人材の確保が課題である。人材確保については理事会としてもサポートしていきたい。

15. 関東支部若手研究者発表会 優秀発表賞、北海道支部の選奨に関わる申請について、サマースクール選奨報告書について(2018-002)、第 2 回 Young Investigator's Award (YIA) 審査について 選奨【議案 15、報告・審議事項】

資料 30-3-15-1 に基づき松村理事より説明が行われ、全会一致で原案通り承認された。

16. サマースクール活動報告書案、収支計算書案 若手研究者活動 WG【議案 16、報告事項】

資料 30-3-16-1、16-2 に基づき、若手研究者 WG の西川氏（国立循環器病研究センター）より報告があった。次年度については同じ時期に関西で開催する予定であることが合わせて報告された。会場費等は合理的範囲で使用してほしい旨、多くの地方の参加者が参加できるように、開催地を検討してほしい旨の意見があった。

17. 臨床研究法 WG について 臨床研究法 WG【議案 17、報告事項】

資料 30-3-17 に基づき黒田委員長に代わり木村理事長より進捗状況の報告があった。関連学会を含めて委員が確定し、2019 年大会でのガイドライン発表に向けた時間進行が定まった。

18. 委員会・セミナー活動報告について 活性化委員会【議案 18、報告事項】

資料 30-3-18 に基づき木村理事長より報告があった。

19. 協賛等の状況（資料回覧） その他【議案 19】

協賛・後援についての資料が回覧された。

20. その他

- 学会メーリングリストの運用と Google G Suite について。現在、学会用のメーリングリストは運営を学会支援機構に委託し、且つドメインは asas-mail.jp となっている。
そこでメーリングリストの開設、メンバーの変更に係る操作の迅速化と学会のドメインである jsmbc.org をアドレスに組み込むことを目的として、Google の G Suite の利用を検討することとなった。利用代金が検討点となろう。
- 生体医工学科活性化委員会の活動について。高校生を対象とした生体医工学領域及び学会の内容を紹介し宣伝する活動については、一定の効果は認められるものの、学会の財務状況を鑑み、当面は費用の掛る活動は休止することとなった。
財務状況の改善が見込まれた後、再開を検討するが、当座は全国大会への高校生の参加など費用の掛らない活動内容を検討する。
- 中沢監事より日本光電訪問の報告があった。日本光電より寄付された荻野賞基金を今後学会として基金を取り崩して賞金を出す可能性があることについて、日本光電側より了承が得られたことが報告された。
- 野村理事より、文部科研について再生医療関係の生体医工学分野（人間医工学）での採択が大幅に増加しており、生体計測や医療機器関連といった従来からある生体医工学分野での採択が減少している現状について情報提供があった。

- 次回理事会は1月、次々回は3月の予定。

以上